

通小町

古名

市原小町

又

四位少将

観阿弥作

ワキ 八瀬の僧

ツレ 小野小町

シテ 深草少将

地は 山城

季は 秋

ワキ詞

「是は八瀬の山里に一夏を送る僧にて候。こゝに何処とも知らず女性一人。毎日本実妻木を持ちて来り候。今日も来りて候はゞ。如何なる者ぞと名を尋ねばやと思ひ候。

ツレ次第

「拾ふ妻木も焼物の。く。匂はぬ袖ぞ悲しき。

サシ

「是は市原野のあたりに住む女にて候。

詞

「さても八瀬の山里に。貴き人の御入り候ふ程に。いつも木実妻木を持ちて参り候。今日もまた参ら

ワキ詞

ばやと思ひ候。如何に申し候。又こそ参りて候へ。いつも来れる人か。今日は木実の数々御物語り候へ。

ツレ

「拾ふ木実は何々ぞ。

地

「拾ふ木実は何々ぞ。

ツレ

「古へ見馴れし車に似たるは。嵐にもろき落椎。

地

「歌人の家の木実には。

ツレ

「人丸の垣穂の柿。山の辺の笹栗。

地 「窓の梅。

ツレ 「園の桃。

地 「花の名にある桜麻の。 苧生の浦梨猶もあり。 櫟か
しひまてばしひ。 大小柑子金柑。 あはれ昔の恋し
きは。 花たちばなの一枝。 く。

ワキ詞 「木実の数々は承りぬ。 さてく御身は如何なる人
ぞ名を御名乗り候へ。

ツレ 「恥かしや己が名を。

地 「おのとはいはじ薄生ひたる。 市原野辺に住む姥ぞ。
跡とひ給へ御僧とて。 かき消すやうに失せにけり。
く。

ワキ詞 「かゝる不思議なる事こそ候はね。 唯今の女性の名
を委しく尋ねて候へば。 おのとはいはじ薄生ひた
る。 市原野に住む姥とて。 かき消すやうに失せて
候。 こゝに思ひ合はする事の候。 或人市原野を通
りしに。 薄一村生ひたる蔭よりも。 秋風の吹くに

付けてもあなめあなめ。小野とはいはゞ薄生ひけりとあり。是れ小野の小町の歌なり。さては疑ふ所もなく唯今の女性は。小野の小町の幽霊と思ひ候ふ程に。彼市原野に行き。小町の跡を弔はゞやと思ひ候。

歌

「此草菴を立ち出でゝ。く。猶草深く露しげき。市原野辺に尋ね行き。座具を展べ香を焼き。南無幽霊成正覚。出離生死頓生菩提。」

ッレ「うれしの御僧の弔ひやな。同じくは戒授け給へ御僧。」

シテ「いや叶ふまじ戒授け給はゞ。恨み申すべし。早歸り給へ御僧。」

ッレ「こは如何にたまゝかゝる法に逢へば。猶其苦患を見せんとや。」

シテ「二人見るだに悲しきに。御身一人仏道ならば我思ひ。重きが上の小夜衣。重ねて憂き目を三瀬川に。」

沈みはてなば御僧の。授け給へるかひも有るまじ。
早帰り給へや御僧達。

地「猶も其身は迷ふとも。く。戒力に引かれば。な

どか仏道ならざらん。唯共に戒を受け給へ。

ツレ「人の心は白雲の。我は曇らじ心の月。出で、御僧
に弔はれんと。薄おし分け出でければ。

シテ「包めど我も穗に出で、く。尾花招かば留まれ
かし。

ツレ「思ひは山のかせきにて。招くと更に留まるまじ。

シテ「さらば煩惱の犬となつて。打たるゝと離れじ。

ツレ「恐ろしの姿や。

シテ「袂を取つて引きとむる。

ツレ「引かるゝ袖も。

シテ「ひかふる。

地「我袂も。共に涙の。露深草の少将。

ワキ詞「さては小野の小町四位の少将にてましますかや。

とてものに事に車の榻に。 百夜通ひし所をまなうで
御見せ候へ。

ツレ 「もとより我は白雲の。 かゝる迷ひの有りけるとは。

シテ詞 「思ひもよらぬ車の榻に。 百夜通へと偽りしを。 ま
ことゝ思ひ。 暁毎に忍び車のしゝに行けば。

ツレ 「車の物見もつゝましや。 姿を変へよといひしかば。

シテ詞 「輿車はいふに及ばず。

ツレ 「いつか思ひは。

地 「山城の。 木幡の里に馬は有れども。

シテ 「君を思へば徒歩跣足。

ツレ 「さてその姿は。

シテ 「笠に簔。

ツレ 「身の浮世とや竹の杖。

シテ 「月には行くも暗からず。

ツレ 「さて雪には。

シテ 「袖を打ち払ひ。

ツレ「さて雨の夜は。」

シテ「目に見えぬ鬼一口も恐ろしや。」

ツレ「たま／＼曇らぬ時だにも。」

シテ「身一人に降る涙の雨か。あら暗の夜や。」

ツレ「夕暮は。一方ならぬ思ひかな。」

シテ「夕暮は何と。」

地「一方ならぬ思ひかな。」

シテ「月は待つらん月をば待つらん。我をば待たゞ空言

や。

地「暁は。／＼。数々多き思ひかな。」

シテ「我為めならば。」

地「鳥もよし鳴け鐘も唯鳴れ。夜も明けよたゞ。一人

寐ならばつらからじ。」

シテ「かやうに心を尽し尽して。」

地「かやうに心を尽し尽して。榻の数々よみて見たれば。九十九夜なり。今は一夜ようれしやとて。待

つ日になりぬ。急ぎて行かん。姿は如何に。

シテ「笠も見苦し。」

地「風折烏帽子。」

シテ「簀をも脱ぎ捨て。」

地「花摺衣の。」

シテ「色重ね。」

地「裏紫の。」

シテ「藤袴。」

地「待つらん物を。」

シテ「あら急がしやすは早今日も。」

地「紅の狩衣の。衣紋けたかく引きつくろひ。飲酒は如何に。月の盃なりとても。戒めならば保たんと。唯一念の悟にて。多くの罪を滅して。小野の小町も少将も。共に仏道成りにけり。く。」